現しやすいように導く。つまり幼児の心にあるものを引き出してやるように仕向ける。又自由画ばかり描かせますと絵が偏よるから、時々画題を指定してやる。画題を指定する場合には描きたくなるような、雰囲気を作ってやる事が大切であるが、指定画ばかりでは自発性をなくし、「先生今日は何をかくの」と指図なしでは描けなくなるので注意が肝要である。

室内の環境も表現の材料となるので新聞の写真を掲示したり美しい花を飾ったり、日除けのカーテン、黒板のカーテン等も美しいアップリケをしておくと、それからヒントを得て描くのである。

幼児の作品も同じものを永く貼っておくとそれからも概念づけられるから、描いたあとは、鑑賞させる程度にしておくか、たえず新しいものと取り替えるようにする。

幼児の絵はその生活に結びついて、表現されるものだという事を認識して、その時代のレデネスに適した、夢や空想が表現出来るように指導する事が、概念画から抜け出す最良の方法だと思う。

幼児の絵画指導に関する基本的研究

—自由画による幼児の絵画概念固定化に関する一実験—

栄光幼稚園　日名子太郎

幼稚園における絵画は、それを通じて幼児の創作的表現に対する興味を養い、創造性を培うことにありとされて居る。今迄の教育方法は確かに幼児の創造能力を萎縮せしめ、絵画概念を固定化する傾向のあった事は事実であろう。そしてこの弊害から免れる為、一切の技術指導を排せるこの方法論を生じて事も当然であると云えよう。子供達が明るく生々と自由にその生命力を表現し得たらどんなにか楽しい事であろう。しかし、表現力を教える事なしに自らの力で発見させ、その様な環境と雰囲気を整える丈で果して幼児の創造力が培われるであろうか。私は今迄の経験から、この点に疑問を持ち、実験により、配色、題材について概念固定化の傾向を数量的に把握しようと試みた。以下、その方法と結果を報告する事とする。

1、対象　二年保育年少組（三十四名）

2、期間　一九五四年六月より一九五五年三月まで合計六十回

3、条件　絵画に関する一切の技術指導は除外し、家庭及び幼稚園における環境は可能な限り整える。

3、材料　クレパス十五色画

画用紙の大きさ　21㎝×14㎝（白色）

但し途中二回だけ　21㎝×28㎝　を使用

5、被験者　第一表右欄参照のこと。

以上の条件で描れた自由画をその配色、題材について見る為、その絵の主要な配色の色彩番号（これを第一次色彩要因と呼ぶ）及び使用全色彩番号を記録する。題材は、その都度、児童に何を書いているか、又何を書いたかを問い記録する外、これに実験者の観察結果も含め記載する。これらを六、七月の第一期、九、十月の第二期

第一表　第一次色彩要因による配色相関々係表

	ρⅠ—Ⅳ	ρⅡ—Ⅳ	ρⅢ—Ⅳ	生年月日	職業	性別	分娩	哺乳	出産時体重
1	0.39	0.32	0.94	25. 2.22	会社員	男	正	母乳	900匁
2	0.23	0.52	0.58	24.11.21	〃	〃	安産	〃	800
3	0.54	−0.22	0.62	25. 1. 8	公吏	〃	〃	混合	740
4	0.14	0.42	0.51	24. 4.29	公社員	〃	〃	母乳	800
5	0.34	0.33	0.15	24. 9. 1	魚業	女	早産	〃	760
6	0.59	0.52	0.39	24. 5. 7	会社員	男	正	〃	620
7	0.26	0.60	0.73	25. 1.21	〃	女	〃	〃	850
8	0.44	0.80	0.21	24. 8.12	化学薬品販売	男	〃	混合	830
9	0.46	0.23	0.51	〃	〃	〃	〃	〃	890
10	0.03	0.52	0.53	24. 4.25	婦人子供服製造卸	女	〃	母乳	830
11	0.44	0.35	0.17	24.10.24	駐留軍勤務	男	安産	〃	800
12	0.58	0.59	0.63	25. 1.26	会社員	〃	正	〃	750
13	0.49	0.49	0.68	24. 7.22	公吏	〃	難産	混合	740
14	0.54	0.60	0.51	25. 2.21	会社員	女	正	〃	670
15	0.31	0.32	0.71	24. 8.27	医師	男	〃	〃	780
16	0.41	0.27	−0.11	25. 4.25	材木商	女	安産	〃	770
17	0.56	0.00	0.27	24.10.29	会社員	男	正	母乳	830
18	0.46	0.12	−0.27	25. 3.27	歯科技工師	〃	安産	〃	720
19	0.49	0.10	0.52	24.10. 7	浴場業	〃	〃	人工栄養	680
20	0.66	0.30	0.16	24.12. 2	会社員	女	正	母乳	930
21	0.50	0.42	0.86	25. 1. 5	印刷会社	〃	安産	〃	900
22	0.48	0.03	−1.24	24. 7.30	薬局	男	早産	〃	660
23	0.82	−0.06	−0.07	25. 3.12	医師	〃	難産	〃	850
24	−0.06	0.32	0.65	24.10. 7	会社員	女	正	母乳	721
25	0.40	0.23	0.44	24. 7.14	〃	男	〃	混母	800
26	0.16	0.11	−0.18	25. 1.24	浴場業	〃	安産	〃	920
27	−0.15	0.41	0.08	23. 5.30	会社員	女	正	母乳	860
28	0.55	0.74	0.85	25. 1. 5	建築業	〃	早産	混合	700

十一、十二月の第三期、一二、三月の第四期毎に、各色彩毎使用頻度を累計し、各期と第四期の間の相関関係を列位差法の公式

$$\rho = 1 - \frac{6\sum D^2}{N(N^2-1)}$$

〔N：色彩数，D…列位差〕により求める。若し相関係数ρが高ければ入園時の主要配色と一年後の配色が余り変化なく固定化の傾向を持っている訳である。この結果が第一、二表である。これによれば途中多少の変化はあっても一年間の流れとしては殆んど入園時と変らない固定化傾向の強いものが大半である事が推察出来る。次に題材では、先ず各題材の百分率を求め、その内から主要題材（第一次題材要因）のみの百分率を表で示す。（第三表）これにすれば極端な子供では殆んどが同じ一定の題材であり只、運動会、遠足、ひな祭り、映画、テレヴィ、ラジオ等刺戟の強い場合は相当の影響が見られるが、一年間を通じると極めて影響力の弱いものとなって了っている。更に、この実験の参考として保護者へのアンケート中、「子供が絵の描き始めの時代にせがまれた時、何を書いて与えました

第二表

	ρⅠ—Ⅳ	ρⅡ—Ⅳ	ρⅢ—Ⅳ
0.20以下	18%	25%	32%
0.20〜0.40	18%	32%	11%
6.40以上	64%	43%	57%

第三表　第一次題材要因による題材分類表

性別	No	I	II	III	IV	乗物	家	火事	その他
男子	1	80%	78.6%	77	95%	—	—		—
	2	88	84.6	84.4	100	—	—		—
	3	80	100	100	100	—	—		
	4	50	63.4	70	50	—		—	—
	6	36.3	38.4	80	63.6	—		—	
	8	30	28.4	72.5	59.2	—	—	—	
	9	90.8	58.6	54.4	56.2	—	—	—	
	11	36.2	71.3	92.2	70.6	—	—		—
	12	91.6	100	100	93.2	—	—		
	13	85.7	46.2	60	62.5	—	—		
	15	60	33.3	81.7	39.9	—	—		
	17	45.3	42.8	54.0	63.5	—	—	—	
	18	71.4	85.7	84.6	94.4	—	—		
	19	66.6	25.0	83.3	56.2	—	—		
	22	100	40	7.7	74.9	—	—	—	
	23	100	61.5	66.5	84.1	—	—		—
	25	100	100	100	77	—	—		—
	26	45.4	38.4	92.3	93.7	—	—		
						人形	家	植物	その他
女子	5	45.3	58.2	91.7	72.2	—	—		
	7	22.2	71.4	38.4	95.3	—	—		
	10	90.8	92.2	100	37.4		—	—	—
	14	81.7	38.4	91.6	100	—	—		
	16	54.4	84.9	66.6	73.6		—	—	
	20	0	45.4	100	64.2		—		—
	21	45.3	49.9	100	57	—	—	—	
	24	43	66.8	100	91		—	—	
	27	36.1	49.8	77.7	50	—	—		—
	28	80	80	68.4	55.4	—		—	—

か」という質問に対する解答によれば、男子の場合、約八〇%が果物、家、動物を、女子の場合、約六〇%が人形、花、家、動物を書いて与えて居り、前記児童の題材分類とよく一致して居る。この二つの間に相関関係があるとは必らずしもいえないが、親自体の考えが既に相当程度概念が固定化している傾向のある事は見逃せない事実である。

以上綜合して、家庭、社会環境の整備を通じて行われる教育は勿論極めて大切な事であり、特に両親教育などは固定概念打破の上に或程度有効であるが、これとても現実の問題としては限度があり、此処に問題が存在するのである。自由に描かせておいた丈では前記の如く決して創造性は培われるる。今後の問題は、学校教育の限度内で、環境整備及び適当な技術指導の方法を充分研究して実施する所にあると思われる。ただ私の此処でいう技術指導が決して従来の様な概念的なものではならない事はいう迄もない。

幼児の遊びに対する親の態度

愛育研究所
竹田俊雄

こゝに報告する研究は、幼児の遊びに関する調査の一部分で、幼児の遊びに対して、その親がどのような考え方をしているかを明ら